

Le Café de la Paix (カフェドラペ) : すっかり生まれ変わったパリの老舗レストラン

Le Nouvel Observateur紙は年頭に発表した「パリの名所400選」のなかで、「カフェドラペ再浮上！」という大見出しをつけ、若返りを果たした老舗レストランを賞賛した。

Le Grand Hôtel (グランホテル) のレストランとしてスタートして以来140年以上の歴史をもつが、2003年には建物を大改装し、「パリのいのち」として変身を遂げた。過去には、通りすがりの「旅行者のためのレストラン」と呼ばれた時代もあったが、それは既に遠い昔の話である。



今日では優雅な赤いシートは旅行者のためと同様に、パリっ子のためのもともなっている。第二帝政時代の大壁画や、くつろぎと活気の入り混じった独特の雰囲気は、初めての客も通の客をも、みな虜にせずにはいないのである。

芸術家、政治家・・・有名人がリピーターとなって何度も訪れる。

最近ではモード界やデザイン界の人々も合流するようになり、カフェテラスもレストランもいつも活気に溢れている。Agatha Ruiz de la Prada (アガタ・ルイス・デ・ラ・プラダ)、Stanislassia Klein (スタニスラシア・クライン)、Chantal Thomass (シャンタル・トーマス)、Agnès b. (アニエスベー) も、最近数ヶ月の間に「五百枚の葉」というとても独創性に富んだ新しいデザートを楽しんだ。



最初の150年間・・・



カフェドラペはずっとグランホテルの一部であった。グランホテルは最初「le Grand Hôtel de la Paix」（グランホテルドラペ）と呼ばれる超高級ホテルで、Hausmann（オスマン）知事が整備したヌーベル・オペラ地区の主要な建造物であった。しかし、カフェレストランと名前が重複してうっとうしいという理由で、ただそれだけで「グランホテル」と名称を変えられたのである。そして「ドラペ」の名はそのカフェレストランのみに残された。

第二帝政時代の優雅さを無傷のまま残した天上画や柱、壁画などのカフェドラペの装飾は、歴史的建造物補足目録にも記載されている。コリント式柱頭の鑄鉄製の柱で支えられている天井には、空の絵が描かれていたり、美しい組み合わせ模様のパネルで縁取りされていたり、神話が描かれていたりする。なかには葉巻やシャンパン、ビール、珈琲を愛するエピキュリアンの小天使たちが金色の渦型装飾で飾られたものもある。天井一面に張り巡らされたパイプは装飾との区別が付きにくいですが、当初、照明用のガスを送っていたものである。



初期のカフェドラペは帝政時代のノスタルジーに満ち満ちた待ち合わせ場所であったが、オペラ座の開設以来、地域の先端を行く流行りのレストランとなった。大通りを眺めるのに理想的な場所でもあったので、すぐに芸術家や作家、ジャーナリスト、劇場関係者、金融関係者、裕福な外国人などの集う場所となったのである。

1896年には、Eugène Pirou (ユジェーヌ・ピル) が中2階で新しい映画の映写会を行った。入場料は1フランで、上映時間は夜8時から真夜中までであった。



1898年の暑い夏の午後、常連の一人であったOscar Wilde (オスカー・ワイルド) はテラスで奇妙な現象を目撃した。車道に撒かれた水が水蒸気となり陽炎のように立ち昇った、と見る間に、その中に黄金の天使が現れたのである。奇跡！それは水蒸気のスクリーンに投影されたオペラ座のてっぺんの天使の像であったには違いないが、彼は不思議な感動を覚えずにはいられなかった。

1914年、前線に向かうラ・マルヌの全タクシーがこの建物の前を行進していった。そして戦勝記念の兵隊たちの行進を、Georges Clemenceau (ジョージ・クレマン



ソー) はここの2階から眺めていたのである。

1938年、カフェドラペの経営陣はアメリカのモデルにヒントを得て、ファーストサービスと低価格のレストランPamPamチェーンを設立した。シャンゼリゼ通りとバー・オペラの場所に開店したが、流行の波に乗り、この最初のファーストレストランは70年代まで、極端なほどの利益を上げた。

1939年、開戦の日、カフェドラペは店を閉めた。その歴史の中で初めてのことであった。

1944年8月25日、レジスタンスの最中ドイツの焼夷弾が火事を引き起こしたが、消火器で武装した給仕長たちによって素早く消しとめられた。

1948年11月、フランスからアメリカに直接放映されたテレビ番組«This is Paris»に、レストランはスタッフとして幹部を貸し出した。出演者はYves Montand (イブ・モンタン)、Maurice Chevalier (モーリス・シュバリエ)、Henri Salvador (アンリ・サルバトール) であった。

1950年代、Marlène Dietrich (マレーネ・デートリッヒ) の公演中は大変な混み



ようで、給仕はキッチンとカウンターと各部屋との往き来に特別の通路を作らなければならなかった。

1976年、テレビジャーナリストのLéon Zitrone (レオン・ジトロヌ) は、在職50年をここで祝うことにし、多くの友人と関係者に招待状を出した。それを受けて、ユーモア作家 Pierre Dac (ピエール・ダック)

が推進したM.L.F (フランス狂人運動) の友人たちは、偽の招待状を作ってお返しをした。それはなんと、19区のコンシェルジュ全員とサーカス団とアコーディオン奏者協会に送られたのである。もちろん全員がその招待状を持って集まった！

1982年、コメディイ・フランセーズ (モリエールの家) がカフェドラペを会場に、設立300周年を祝った。豪華な夕食会には Jean Piat (ジャン・ピアット)、Sophie Desmarests (ソフィー・デズマレ)、Jean le Poulain (ジャン・ル・プラン)、Michel Duchaussoy (ミシェル・デュショソワ)、Annie Ducaux (アニー・デュコー)、Georges Descrières (ジョルジュ・デスクリエール) 及び Bernard Blier (ベルナル・ブリエ) や José Artur (ジョセ・アルチュール) のような仲間たちが列席した。



1989年、フランス革命200年祭がここで行われたが、このときグレヴァン美術館との協力で、革命シーンの展示がガラスのショーケースに入れて行われた。また100周年記念のマリアンヌ胸像の印刷物も飾られた。



2000年、カフェドラペは、カフェ、レストラン、キャバレーを対象とする「パリ市長遺産賞」を受賞した！

2003年、カフェドラペはフランス建造物協会監督の下、全面改修を行い、庭の古い装飾や仕切りを撤去した。これにより風通しも見晴らしも良くなり、初期の雰囲気とスペースが回復された。